

## 報告書抄録

ふりがな	はんのきはらいせき							
書名	檀木原遺跡Ⅳ							
シリーズ名	一般国道161号西大津バイパス事業に伴う発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	大道 和人・小竹森直子							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課 / 財団法人滋賀県文化財保護協会							
所在地	滋賀県大津市京町四丁目1番1号 / 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2							
発行年月日	平成24年(2012年)2月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査面積	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
はんのきはらいせき 檀木原遺跡	おおつしみなみし 大津市南志賀一丁目地先	25201	139	35度2分9秒	135度51分10秒	200㎡	20080711 ) 20080916	一般国道161号西大津バイパス(18工区)事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
檀木原遺跡	瓦窯 工房跡	白鳳期・ 奈良～平安時代	瓦窯 (平窯・窖窯) 粘土溜	瓦類	昭和48年度に発掘調査を実施後埋め戻して現地保存していた、大津宮遷都の頃から平安時代に存在した南滋賀町廃寺(国指定史跡)に供給されていた瓦を焼成した瓦窯の再調査			
要約	遺構が位置する中央分離帯が撤去されることから、今回の調査では窯の構築材として床面に敷設あるいは焼成室畝上に積み上げられた瓦類を取り除き、床面・窯壁の構造を確認しこれを記録保存することを目的として実施した。その結果、各窯は地山を掘り込み、若干の粘土を貼り付けて構築されていること、また、地山層にまでおよぶ被熱変化を確認した。特に、窖窯であるC-2号窯は、花崗岩バイラン土を含む粘土質の地山層を掘り込んで構築しており、熱効率および窯体維持を考慮し、地山層の性質を精査し選地したことがうかがえる。構築材としての瓦の年代観は、窖窯(C-2号窯)が7世紀第3四半世紀、平窯(C-1号窯・C-3号窯)が8世紀後半頃である。							